



島田療育センター

島田療育園(現島田療育センター)は1961(昭和36)年5月に、東京都多摩市(当時は南多摩郡多摩村)に日本で最初の重症心身障害児施設として設立された。その発端は、島田療育園の初代園長小林提樹と島田伊三郎の出会いから始まる。島田の次男良夫は重いてんかん発作と知的障害があり家庭での養育・看護が困難な状態であったところ、主治医の小林か

東京都

# 社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センターはちおうじ



ら「同じ悩み(障害のある)の方々が多勢おられることですから、良夫ちゃんだけのことでなく、一緒に共同にそういう家を持たれたほうが、よくないでしょうか」と重症心身障害児施設建築の話を持ちかけられ、施設設立の準備を進めた。開園にあたり周囲の住民からの理解を得ることに苦労したが、島田はこの地に約1万坪の土地を購入し寄付した。開園後も小林は、経営やスタッフ募集と教育、そして行政とのやりとりで大変な労を注ぎながら、障害児(者)とその家族を守るために、医療、家庭での介護指導、福祉制度の向上に努力を重ね、「両親の集い」を通して重症児の親を導き励ました。この会はその後、「全国重症心身障害児(者)を守る会」に発展した。

小林は、障害児のいのちと生活をより充実させるため、学問として障害児医学を充実させるべく、学会を作り、多くの著述を行い、重症児医学の基礎を作った。以後、多くの医師が島田療育センターで学び、それぞれの地域での障害児医療を担っている。

島田療育センターはちおうじの設立

島田療育センターはちおうじは、2010(平成22)年に都立八王子小児病院が、都立小児総合医療センター(府中市)へ移転したことを契機に、八王子市や地域住民からの委託を受けて、都立病院の跡地に2011(平成23)年4月に開設された。八王子市から、障害児医療サービスを継続したいという依頼が島田療育センターに届いた時には、木実谷哲史理事長(現名誉院長)がたいそう驚かれたという。約60年前、島田療育園の開設時には周囲の住民からの偏見で反対が強かったが、50年後に本センターの発足にあたっては、行政と住民からの要請であり、隔世の感がある。

「島はち」として親しまれる  
島田療育センターはちおうじ

島田療育センターはちおうじは、JR中央線の西八王子駅から徒歩約10分、人通りの多い駅前から台町交差点を過ぎると学校が集まる文教地区に入り、まもなく3階建ての島田療育センターはちおうじの建物が見えてくる。八王子小児病院の跡地は、八王子市小児・障害メディカルセンターとして市が整備しており、その中に島田療育センターはちおうじが開設されている。



島田療育センターはちおうじは、スタッフや利用者から親しみを込めて「島はち」と呼ばれている。そこで、本稿でもこれより以降は「島はち」と表記することにする。島はちの基本理念は、「輪を和でつなぐ」であり、人と人との輪を大切に、利用するすべての人が「和める」施設を目指している。基本方針は「利用者の声に応えるサービスの提供」「生活に役立つ支援と助言」「関係機関と連携した地域療育支援」「サービス精神と技術の向上に努め、センター全体の質を高める」「創造的で健全な管理運営」である。

施設の概要

島はちは、診療療育部門(障害児診療)、小児診療部門(一般小児診療)、発達障害支援部門、重症心身障害児通所部門を有する診療施設である。診療療育部門は、障害児診療と療育であるが、初診の多くが発達障害児であるという。小児診療部門(こどもクリニックえみんぐ)は、一般小児診療を行っており、乳児健診、予防接種、栄養相談、医学検査などを行っている。発達障害支援部門(発達障害児支援室「からふる」)は、個別相談、集団指導、家族支援などを行っている。通所部門は、在宅重症心身障害児を対象とした療育を行っている。

1階部分は、小児診療室と療育診療部門であるが、入り口が分かれている。2階部分は重症心身障害者通所施設で、通所入り口も分けられており、エレベーターで2階に上がることができる。3階は、「からふる」のほかに集団指導室、作業療法室も設けられている。

島はちは、年間500人以上の新規外来受診をはじめ、延べ利用人数は、コロナ禍前は年間5万人に達し



